

教育科目	疾病学 I		教育内容	疾病学		講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	13 コマ	単位数 1 単位
授業目標	1. 本学生が動物医療現場に於いて動物看護師として適格にその任務が果たせる能力が獲得できるよう、重篤度が比較的高い内科分野での各疾病の発病機序、病態及び診断検査手段等の綿密な講義を通して、その習熟度を高めること。					
授業概要	テキストの解説及び関連資料での補足説明。 グループ討議。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）		
	小テスト	前期	6回・後期	回	前期	回・後期
	評定方法 定期試験及び平常点にて判定。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する					
使用 テキスト等	小野 憲一郎, 今井 壯一, 多川 政弘, 安川 明男, 後藤 直彰 『イラストで見る犬の病気』（講談社） 『イラストで見る猫の病気』（講談社）					

教育科目	動物薬理学 I		教育内容	動物薬理学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	13 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 獣医療現場で使用される主な薬剤の特性や副作用を理解し実際の医療現場での行動に活かし、飼い主に簡単に薬について説明ができる。						
授業概要	獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを目指す。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期	回
	評定方法 定期試験及び平常点にて判定。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する 動物病院で動物看護師としての実務経験 実務経験を活かして動物分野の医療・検査・接客対応等の幅広い知識や技術を教授						
使用 テキスト等	全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 『認定動物看護師教育カリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学 2』（インターズー）						

教育科目	動物看護学 I		教育内容	動物看護学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	13 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、その症例にあった動物看護ができるようになる。 2. 主な疾患の症状・回復に必要な事項を説明できる。(内科・外科・皮膚・眼科・歯科等)						
授業概要	動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイント、動物看護師が行う飼い主への指導を学ぶ。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他 (レポートなど)			
	小テスト	前期	6回	後期	回	前期	回・後期 回
	評価方法 定期試験および小テストで評価する。						
評価基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する 動物病院で動物看護師としての実務経験 実務経験を活かして動物分野の医療・検査・接客対応等の幅広い知識や技術を教授						
使用 テキスト等	浅野 妃美『コンパニオンアニマルの内科疾患学入門』(インターズー) 緑書房編集部『動物看護の教科書 第5巻』(緑書房)						

教育科目	臨床総合実習 I		教育内容	看護実習臨床		実習
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	37 コマ	単位数 2 単位
授業目標	<p>1. 実習先からより実践的な経験や知識・技術,社会人としての一般常識を学ぶことで成長する。</p> <p>2. コミュニケーションスキルや知識・技術を就職後に活かすことができる。</p>					
授業概要	<p>実習先より実際の現場の流れや臨場感・技術を学ぶ。</p> <p>新人スタッフとしての心構えを学ぶ。</p>					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(レポートなど)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1 回・後期
	<p>評価方法</p> <p>実習先の評価及び提出物により判定。</p>					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する					
使用 テキスト等	なし					

教育科目	健康管理基礎学Ⅲ		教育内容	健康管理基礎学		講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	16 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. 基礎栄養素を理解し、適切な食事管理を飼い主へ指導できる。 2. エキゾチックアニマルの生態の違いを理解し適切な飼養、看護ができる。					
授業概要	犬猫の必要栄養素を理解する。 エキゾチックアニマルの飼養管理、習性、生態について学ぶ。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）		
	小テスト	前期	6回・後期	回	前期	回・後期
	評定方法 定期試験及び小テストにて判定。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する					
使用 テキスト等	清水宏子『やさしいエキゾ学』（インターズー） 奈良なぎさ『犬と猫の栄養学』（緑書房）					

教育科目	看護美容実習応用 I		教育内容	トリミング実習		実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	15 コマ	単位数 1 単位
授業目標	1. 各犬種の特徴に応じた美容技術を習得する。					
授業概要	さまざまな犬種それぞれの特徴を發揮する美容法を実習によって習得する。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技試験評価)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1回・後期
	評価方法 実技試験評価および提出物の有無、平常点により判定する。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する ペットサロンでの実務経験。 実務経験を活かしてトリミングから接客対応まで幅広い知識や技術を教授。					
使用 テキスト等	金子幸一 著 『プードル・トリミングの教科書』 (緑書房)					

教育科目	看護美容実習基礎 I		教育内容	グルーミング実習		実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	30 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. 爪切り・耳掃除・ブラッシング・シャンプーなどの基本的グルーミング作業を習得する。					
授業概要	ペットの健康を維持するためのグルーミング法を実習によって習得する。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技試験評価)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1回・後期
	評価方法 実技試験評価および提出物の有無、平常点により判定する。					
評価基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する ペットサロンでの実務経験。 実務経験を活かしてトリミングから接客対応まで幅広い知識や技術を教授。					
使用 テキスト等	金子幸一 著 『プードル・トリミングの教科書』 (緑書房)					

教育科目	看護飼育実習 I		教育内容	飼育管理			実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	15 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 健全な動物飼育方法を習得し、実践する。						
授業概要	学校飼育動物の飼育管理を中心とした実践を行い、飼育技術を習得する。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他 (実技評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1回・後期	回
	評定方法 実技評価および平常点により判定する。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	特になし						

教育科目	動物看護実習Ⅲ		教育内容	動物看護実習			実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	45 コマ	単位数	3 単位
授業目標	1. 犬猫の診察補助に必要な基本的技術を習得する。 2. 看護動物への看護計画を実際に行う。 3. 動物業界に適した受付業務、院内コミュニケーションを身につける。						
授業概要	保定方法など基礎的な知識や専門的検査の方法・手順を学ぶ。 看護動物についての理解と看護動物の状態を把握し基本的なケアを学ぶ。 受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を学習する。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1 回・後期	回
評価方法	評定方法 実技評価及び平常点にて判定。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会編 『動物看護実習テキスト 第2版』(インターズー) 新人動物看護師トレーニングガイドシリーズ 『1年目に身に付ける社会人マナー&接遇スキル50』(インターズー)						

教育科目	看護総合実習 I		教育内容	看護実習・実践 アニマルセラピー実習		実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	35 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. 検体検査及び生体検査に関する意味を理解し基本的手技を身につける。 2. 注射器や輸液などの取扱いが行えるようになる。					
授業概要	検体を用いる検査と生体検査の目的を理解し、実際に検査を行う。 診療現場に必要な観察力及び看護に関する基本的手技を身につける。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技評価)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1 回・後期 回
評価方法	実技評価及び平常点にて判定。					
評価基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する 獣医師としての実務経験 獣医師として現場での治療・薬剤等の幅広い知識・技術を具体的に教授					
使用 テキスト等	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会編 『動物看護実習テキスト 第2版』(インターズー)					

教育科目	企業体験実習Ⅱ		教育内容	企業体験実習Ⅱ			実習
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	16 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 企業での実戦の中で、学んできたことを活かす。 2. 自分の能力を知り、さらなる高みを目指す。						
授業概要	インターンシップ 実際の中で、現場のプロから指導を受ける。(事前指導1コマ、事後指導1コマを含む)						
成績評価 方法	定期テスト	なし	その他(レポートなど)				
	小テスト	なし	実習前、実習後レポート提出				
	評価方法 企業からの評価と出席率および提出物の評価による。						
評価基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する 専門知識や資格等を有する 企業等担当者の実務経験 企業担当者が実務経験を活かして職業観や職務内容について教授						
使用 テキスト等	特になし						

教育科目	疾病学Ⅱ		教育内容	疾病学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	15 コマ	単位数	2 単位
授業目標	1. 本学生が動物医療現場に於いて動物看護師として適格にその任務が果たせる能力が獲得できるよう、重篤度が比較的高い内科分野での各疾病の発病機序、病態及び診断検査手段等の綿密な講義を通して、その習熟度を高めること。						
授業概要	テキストの解説及び関連資料での補足説明。 グループ討議。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期	回
	評定方法 定期試験及び平常点（検定試験結果を含む）にて判定。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	小野 憲一郎, 今井 壯一, 多川 政弘, 安川 明男, 後藤 直彰 『イラストで見る犬の病気』（講談社） 『イラストで見る猫の病気』（講談社）						

教育科目	公衆衛生学 I		教育内容	公衆衛生学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・ 後期	授業コマ数	15 コマ	単位数	2 単位
授業目標	1. 人畜共通感染症に関する講義を通じて、動物と人との健全で健康的な関係を保持することの重要性を認識し、正しい動物看護の在り方を習得する。						
授業概要	テキストの解説及び関連資料による補足説明 グループ討議						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）			
	小テスト	前期	回・後期	6 回	前期	回・後期	回
	評価方法 定期試験及び小テスト、平常点にて判定。						
評価基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 『認定動物看護師教育カリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学 2』（インターズー）						

教育科目	動物看護学Ⅱ		教育内容	動物看護学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・ 後期	授業コマ数	14 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、その症例にあった動物看護ができるようになる。 2. 主な疾患の症状・回復に必要な事項を説明できる。(内科・外科・皮膚・眼科・歯科等)						
授業概要	動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイント、動物看護師が行う飼い主への指導を学ぶ。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他 (レポートなど)			
	小テスト	前期	回・後期	6回	前期	回・後期	回
	評価方法 定期試験および平常点 (検定試験結果を含む) で評価する。						
評価基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する 動物病院で動物看護師としての実務経験 実務経験を活かして動物分野の医療・検査・接客対応等の幅広い知識や技術を教授						
使用 テキスト等	浅野 妃美『コンパニオンアニマルの内科疾患学入門』(インターズー) 緑書房編集部『動物看護の教科書 第5巻』(緑書房)						

教育科目	健康管理基礎学IV		教育内容	健康管理基礎学		講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・ 後期	授業コマ数	16 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. 基礎栄養素を理解し、適切な食事管理を飼い主へ指導できる。 2. エキゾチックアニマルの生態の違いを理解し適切な飼養、看護ができる。					
授業概要	犬猫の必要栄養素を理解する。 エキゾチックアニマルの飼養管理、習性、生態について学ぶ。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）		
	小テスト	前期	回・後期	6回	前期	回・後期 回
	評定方法 定期試験及び小テストにて判定。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する 専門知識や資格等を有する					
使用 テキスト等	清水宏子『やさしいエキゾ学』（インターズー） 奈良なぎさ『犬と猫の栄養学』（緑書房）					

教育科目	看護美容実習応用Ⅱ		教育内容	トリミング実習		実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期 (後期)	授業コマ数	17 コマ	単位数 1 単位
授業目標	1. 各犬種の特徴に応じた美容技術を習得する。					
授業概要	さまざまな犬種それぞれの特徴を發揮する美容法を実習によって習得する。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	(その他) (実技試験評価)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期 1回
評定方法	実技試験評価および提出物の有無、平常点により判定する。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する ペットサロンでの実務経験。 実務経験を活かしてトリミングから接客対応まで幅広い知識や技術を教授。					
使用 テキスト等	金子幸一 著 『プードル・トリミングの教科書』 (緑書房)					

教育科目	看護美容実習基礎Ⅱ		教育内容	グルーミング実習		実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	33 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. 爪切り・耳掃除・ブラッシング・シャンプーなどの基本的グルーミング作業を習得する。					
授業概要	ペットの健康を維持するためのグルーミング法を実習によって習得する。					
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技試験評価)		
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期 1回
	評価方法 実技試験評価および提出物の有無、平常点により判定する。					
評価基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する ペットサロンでの実務経験。 実務経験を活かしてトリミングから接客対応まで幅広い知識や技術を教授。					
使用 テキスト等	金子幸一 著 『プードル・トリミングの教科書』 (緑書房)					

教育科目	看護飼育実習Ⅱ		教育内容	飼育管理			実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	16 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 健全な動物飼育方法を習得し、実践する。						
授業概要	学校飼育動物の飼育管理を中心とした実践を行い、飼育技術を習得する。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期 回・後期 1 回		
	評定方法 実技評価および平常点により判定する。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	特になし						

教育科目	動物看護実習Ⅳ		教育内容	動物看護実習			実技
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	54 コマ	単位数	3 単位
授業目標	1. 犬猫の診察補助に必要な基本的技術を習得する。 2. 看護動物への看護計画を実際に行う。 3. 動物業界に適した受付業務、院内コミュニケーションを身につける。						
授業概要	保定方法など基礎的な知識や専門的検査の方法・手順を学ぶ。 看護動物についての理解と看護動物の状態を把握し基本的なケアを学ぶ。 受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を学習する。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(実技評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期	1 回
評価方法	評定方法 実技評価及び平常点にて判定。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する・専門知識や資格等を有する 動物病院で動物看護師としての実務経験 実務経験を活かして動物分野の医療・検査・接客対応等の幅広い知識や技術を教授						
使用 テキスト等	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会編 『動物看護実習テキスト 第2版』(インターズー) 新人動物看護師トレーニングガイドシリーズ 『1年目に身に付ける社会人マナー&接遇スキル50』(インターズー)						

教育科目	看護総合実習Ⅱ		教育内容	看護実習・実践 アニマルセラピー実習			実技・実習
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・ 後期	授業コマ数	40 コマ	単位数	2 単位
授業目標	1. 検体検査及び生体検査に関する意味を理解し基本的手技を身につける。 2. 注射器や輸液などの取扱いが行えるようになる。						
授業概要	検体を用いる検査と生体検査の目的を理解し、実際に検査を行う。 診療現場で必要な観察力及び看護に関する基本的手技を身につける。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他 (実技評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期	1 回
	評価方法 実技評価及び平常点（検定試験結果を含む）にて判定。						
評価基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する 獣医師としての実務経験 獣医師として現場での治療・薬剤等の幅広い知識・技術を具体的に教授						
使用 テキスト等	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会編 『動物看護実習テキスト 第2版』（インターズー）						

教育科目	動物栄養学 I		教育内容	栄養学			講義
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・ 後期	授業コマ数	16 コマ	単位数	2 単位
授業目標	1. 1. 基礎栄養素と犬と猫の必要な栄養素の違い、適切な食事管理を習熟する。						
授業概要	テキストの解説及び関連資料での補足説明。 グループ討議。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他（レポートなど）			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期 回・後期 回		
	評定方法 定期試験及び平常点（検定試験結果を含む）にて判定。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	石岡 克己、徳本 一義、小田 民美、小沼 守、堀 達也 動物医療従事者のための臨床栄養学						

教育科目	アニマルコミュニケーション I		教育内容	アニマルコミュニケーション			演習
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	10 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. マナー、電話応対、接客接遇、職場での対応力などの現場スキルを向上させ即戦力として就職できる力を習得する。						
授業概要	グループワークや動物業界でのケースワーク、実務実践を通じ現場対応力を習得する。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他 (演習評価)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	1回・後期	回
	評定方法 提出物の有無および平常点により判定する。						
評定基準	『坪内学園教務規程』による						
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	特になし						

教育科目	キャリア演習Ⅱ		教育内容	キャリア演習Ⅱ・人間性と社会性Ⅱ			演習
学 科 開講学年	動物 学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	10 コマ	単位数	1 単位
授業目標	1. 就職活動を円滑に行う力を養う。 2. マナーの大切さを理解し、社会人としての基本的マナーを身に付ける。 3. 職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーションの能力を培う。 4. 社会の中での自己の在り方生き方について認識させ、働くことの意識付けや豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を養う。						
授業概要	社会人講話や就職活動を通して、社会人に必要な基礎知識や仕事に対する取り組み姿勢について学ぶ。学生と社会人で異なるコミュニケーション能力を知り、事例を通じてビジネスにおけるコミュニケーションスキルを理解する。 社会性とは何か、事例を通じて適応的人間関係を構築できる態度について考える。						
成績評価 方法	定期テスト	前期	後期	その他(レポートなど)			
	小テスト	前期	回・後期	回	前期	回・後期	回
評定基準	評定方法 提出物、報告書等及び取り組み状況により判定。						
担当教員	『坪内学園教務規程』による						
使用 テキスト等	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する						
使用 テキスト等	自主作成プリント等						

教育科目	文化・教養Ⅱ		教育内容	総合体育Ⅲ・企画マネジメントⅡ・総合体育Ⅳ・式典出席		演習
学 科 開講学年	動物学科 2年	開講期	前期・後期	授業コマ数	16 コマ	単位数 2 単位
授業目標	1. マナーの大切さを理解し、集団行動としての協調性を養う。 2. 日頃の授業の成果を発揮し、今後の活動に活かすことができる。 3. 活動を通じ、チームワークの大切さを知ることができる。					
授業概要	スポーツ大会、学園祭、入学式出席					
成績評価 方法	定期テスト	なし	その他（レポートなど） なし			
	小テスト	なし				
	評定方法 出席率及び取り組み状況の評価等の平常点をもって評価する。					
評定基準	『坪内学園教務規程』による					
担当教員	実務経験を有する ・ 専門知識や資格等を有する					
使用 テキスト等	自主製作教材					